

特定非営利活動法人  
国境なき医師団日本

〒162-0045

東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田 FIRST 3階

Tel: 03-5286-6123(代表) Fax: 03-5286-6124

E-mail: office@tokyo.msf.org

[www.msf.or.jp](http://www.msf.or.jp)



# 活動報告書

2016年 1月→12月

特定非営利活動法人  
国境なき医師団日本



## Activity Report 2016

January-December 2016  
Médecins Sans Frontières Japan



# 国境なき医師団とは

## 医療援助を第一に

国境なき医師団(MSF)は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとするスタッフが、世界約70の国と地域で援助活動を行っています。1971年にフランスで設立されました。

## 独立・中立・公平

MSFは誰からも干渉や制限を受けることなく、助けを必要としている人びとの元へ向かい、人種や政治、宗教にかかわらず、分け隔てなく援助を届けます。

## 世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにすることもあります。MSFはそのようなとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言します。

## Contents



### VOICE from the Field

「水上で“名もなき死者”が出てはならない」  
2016年10月22日未明、前日の大規模な救援活動で、ディグニティ・ワン号は既に満員に近づきつつありました。そこに新たな救難要請があり、漂流しているゴムボートに急行すると、その現場は想像を絶するものでした。ゴムボートから飛び降りた多くの人が意識を失い、溺れかけている。ゴムボートの底には他の人の下敷きになった子どもと女性ら9人の遺体がありました。地中海では1月から10月だけで4200人以上が死亡・行方不明になっています。洋上で身元不明のまま亡くなっている人などいません。国際社会はこの事態の傍観者になってはならないのです。(MSFが地中海で運航する搜索・救助船「ディグニティ・ワン」号でプロジェクト・コーディネーターを務めるニコラス・パパクリストムー 2016年11月時点)



### 地中海での難民援助

中東・アフリカから地中海経由で欧洲を目指す難民の数は2016年も増加の一途をたどった。MSFは救助船を出動して漂流船の搜索・救助に当たり、延べ200回以上の活動で計3万572人を救助した。

MSFと市民団体「SOSメディテラネ」が共同運航するアクエリオス号のチーム(写真)。このほかディグニティ・ワン号、バーボン・アルゴス号が出動した。©Johannes Moths

表紙: 骨折した幼児の腹部出血を取り除くため、超音波検査を行う医師。イエメン、イップ州ティ・アス・スファル地区の地域総合病院にて。©Malak Shaher/MSF

裏表紙: イエメン北部サアダ州ハイダン地区のMSF支援病院は、10月26日の空爆を受けて全壊した。©Atsuhiko Ochiai/MSF

国境なき医師団憲章/10の原則	5
The Charter of MSF/10 Principles of MSF	
<b>MSF日本 2016</b>	<b>6</b>
会長・事務局長からの挨拶	8
Message from the President & the General Director	
海外派遣実績	10
Field Staff Sent by MSF Japan	
派遣地からの声	12
Voice from the Field	
資金援助対象国	14
Countries Funded by MSF Japan	
援助国からの声	16
Voice from the Field	
財務ハイライト	18
Financial Highlights	
財務報告	20
Financial Report	
<b>MSFワールドワイド 2015</b>	<b>25</b>
活動地とネットワーク	26
MSF Activity Map & Network	
数字で見るMSFの活動	28
MSF Facts & Figures	
謝辞	30
Acknowledgements	
<b>MSF日本の活動から</b>	<b>31</b>
Updates of MSF Japan	

## VOICE from the Field

「紛争と栄養危機で多くの人が傷ついている」

政府軍と「ボコ・ハラム」の衝突により住民たちの大規模避難が続くナイジェリア北東部のボルノ州で、小児医療に携わりました。栄養失調対策プログラムでは通常、生後半年～5歳未満の子どもを治療しますが、ここでは深刻な栄養危機が広がっており、5～10歳の子どもも受け入れています。つらいのは患者の体験談です。2歳の男の子を連れ、紛争から逃れてきた母親のことが忘れられません。その親子は自宅を爆破され父親を亡くし、4人の子どものうち1人を暴動で、2人をはしかで亡くし、連れてきた子も重度の栄養失調になっていました。お母さんは身の上を話しあると泣きだしました。多くの人が実際に過酷な出来事を体験し、傷ついているのです。(ナイジェリアのボルノ州マイドゥグリ市に派遣されたマルコ・オッラ医師 2016年12月時点)



### ナイジェリア

政治不安や過激派組織「ボコ・ハラム」による襲撃などにより、北東部全域で200万人が避難生活を送る。国境なき医師団(MSF)は国内避難民キャンプで栄養失調などへの緊急援助に対応している。



ボルノ州ダンボアの廃病院には多くの国内避難民が身を寄せている。避難民が置かれた住環境は厳しく、衛生設備や食糧も不十分だ。

## 国境なき医師団憲章

### The Charter of MSF

国境なき医師団は

苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し  
人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて  
差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は

普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に  
中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない  
自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアは

その職業倫理を尊び  
すべての政治的、経済的、宗教的権力から  
完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアは

その任務の危険を認識し

国境なき医師団が提供できる以外には  
自らに対していかなる補償も求めない。

Médecins Sans Frontières provides assistance to populations in distress, to victims of natural or man-made disasters and to victims of armed conflict. They do so irrespective of race, religion, creed or political convictions.

Médecins Sans Frontières observes neutrality and impartiality in the name of universal medical ethics and the right to humanitarian assistance and claims full and unhindered freedom in the exercise of its functions.

Members undertake to respect their professional code of ethics and to maintain complete independence from all political, economic, or religious powers.

As volunteers, members understand the risks and dangers of the missions they carry out and make no claim for themselves or their assigns for any form of compensation other than that which the association might be able to afford them.

## 10の原則

### 10 Principles of MSF

1. 第一に医療援助活動  
Medical Action First
2. 証言活動  
Temoignage (Witnessing): An Integral Complement
3. 医療倫理の遵守  
Respect for Medical Ethics
4. 人権の擁護  
Defense of Human Rights
5. 独立性への配慮  
Concern for Independence
6. 公平性  
A Founding Principle: Impartiality
7. 中立性の精神  
A Spirit of Neutrality
8. 説明責任と透明性  
Accountability and Transparency
9. 自発的に参加する  
現地活動スタッフからなる組織  
An Organization of Volunteers
10. 同じ目的の下に集ったメンバーが  
運営する非営利の組織  
Operating as an Association

MSF日本

## 2016年の 活動実績と財務



### VOICE from the Field

#### 「紛争地で活動する厳しさを実感」

紛争が続くイエメンで、新病院の立ち上げに参加しました。首都の空港に着くと、破壊された機体が放置されていました。首都近郊では毎夜、空爆が繰り返され、寝ていると爆音が聞こえます。翌日の会議で、北部の国境なき医師団(MSF)支援病院が爆撃され負傷者が出ていたこと、南部の都市でも同日爆撃があったことが説明され、結局、出発は2日延期されました。首都から車で5時間ほどの活動拠点に到着した日の夕食時、近くの検問所へ2回連続で空爆が発生。衝撃波も体に大きく感じ、不安な夜となりました。治安上の問題で移動回数にも制限がありました。少しでも早く救急救命を提供できるよう、協力体制構築のための視察や手術室の稼働準備を進めました。(イエメン・タイズ市近郊の町イップに派遣された渥美智晶医師 2016年1月時点)



#### イエメン

政府軍と反政府勢力の武力衝突に端を発し、多国籍軍の介入により国内各地で空爆が繰り返される事態に。MSFが支援・運営している病院も爆撃の被害に遭い、患者・スタッフが命を落とした。

## 複雑さを極める世界情勢の中、国境なき医師団は 拡大する人道問題に取り組み続けました。

昨年も国境なき医師団(MSF)にとっては果敢に挑戦を続ける1年となりましたが、日本や世界中の皆さまからの温かいご支援のおかげで、約70の国と地域で続いている数々の危機に対応することができました。

紛争が続く母国を逃れ、命懸けで地中海を渡ろうとする人びとの数は2016年に過去最高を記録しました。MSFは地中海での活動のほか、暴力の続くブルンジから近隣諸国に逃れた人びとを含め、世界各地で難民や国内避難民の方々への医療・人道ニーズに対応しました。

アフリカ中央部に位置するチャド湖畔の国々でも人道危機は続きました。ナイジェリア北部のボルノ州では人道上の大惨事が起きています。経験豊富なMSFスタッフでもショックを受けるほど深刻な栄養危機の存在が明らかになりました。

2017年においても、これらの地域は切迫した状況にあります。MSFは医療・人道援助が必要とされている場所ならどこへでも駆けつけて活動を行うとともに、目の当たりにした残虐行為や防げるはずの人災に対して証言をしてまいります。

昨年はまた、ハリケーン「マシュー」が10月に襲来し、家屋が破壊され、多数の死傷者が出了ハイチや、黄熱病が流行したコンゴ民主共和国にも赴きました。コンゴ民主共和国ではわずか10日間で76万人に予防接種を実施するという、一度に行う予防接種としてはMSF過去最大の規模となりました。さらに、MSFはここ日本でも、熊本地震に対応しました。

内戦が続くシリアとイエメンでは、困難な状況下ながら、現地の病院と医療スタッフを支援し続けました。イエメンではいまも1500人以上のMSFスタッフが、国内各地にある30の医療施設で、直接または間接的に援助活動を続けています。

両国で暮らす人びと、またそこで医療に従事する者たちは、紛争地域での生活に伴う危険と困難ばかりでなく、医療施設が攻撃の標的になるという危機に直面しています。昨年だけでも50回以上、MSFが活動または支援していた病院が攻撃を受けました。このような状況は断じて受け入れ難い不法行為であります、残念ながら現在も続いています。それゆえ、MSF日本は昨年より「病院を撃つな！」キャンペーンを展開し、10月には東京で写真展も開催しました。病院への攻撃をなくすため、2017年もより多くの方々に情報を発信し、ご支援をお願いしてまいります。

日本および世界の皆さまからのご支援は、私たちの活動を可能にする手段というだけでなく、さらに多くの援助を待つ人たちの元へ向かうための原動力となっています。私たちは今後も、日本社会に私たちを支えてくださる輪を築き、独立・中立・公平を遵守しながら、命の危機に置かれ援助を必要としている人びとに、医療を提供してまいります。

本年も変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



国境なき医師団日本  
事務局長  
ジェレミィ・ボダン

Jérémie Bodin  
General Director  
Médecins Sans Frontières Japan

© Ayako Hachisu



国境なき医師団日本  
会長  
加藤 寛幸

Hiroaki Abe MD  
President  
Médecins Sans Frontières Japan

© Toshiya Abe



© Louise Annaud/MSF  
ブルンジから月平均 1万人もの難民が押し寄せるタンザニアのンドウタ・キャンプで医療施設を運営。



© Joffrey Monnier/MSF  
ハイチではハリケーン発生直後から被災地に入り、医療、救援物資・仮設住居、衛生システムを提供。



© MSF  
コンゴ民主共和国では、特効薬のない黄熱病の流行を抑止するため、大規模予防接種や蚊の駆除を実施。



© KARAM AL MASRI  
紛争が長引くシリア北部では医療施設を運営・支援し、臨時に緊急医療物資の寄贈も行った。

## MSF continued to address the humanitarian challenges in a complex global environment.

Last year was as challenging as ever for MSF, but because of the support by so many members of Japanese society and individuals across the world we were able to respond to hundreds of new and continuing emergencies in nearly 70 countries and regions.

From migrants embarking on dangerous crossings of the Mediterranean Sea - 2016 was the deadliest year on record - to refugees from Burundi fleeing violence to neighbouring countries, MSF responded to the global medical and humanitarian needs of displaced persons.

The humanitarian emergency in countries bordering Lake Chad continued as a humanitarian disaster in Borno State in northern Nigeria emerged and revealed a malnutrition crisis that was staggering and shocking even to established MSF field workers.

In early 2017 the situation there remained urgent and we are committed to go wherever medical humanitarian aid is needed and speak out against atrocities we witness and preventable, man-made disasters.

Last year also took MSF staff to Haiti, where Hurricane Matthew destroyed homes and lives on the Caribbean island in October, and MSF's largest single vaccination effort of the year in DRC that provided Yellow Fever vaccination to 760,000 in just 10 days. MSF even responded here in Japan after the earthquake in Kumamoto.

Despite challenging contexts in Syria and Yemen, MSF continued its support of hospitals and medical staff there. In Yemen more than 1,500 MSF staff support or work at 30 medical centres across the country.

In both countries civilians and medical care workers faced not just the danger and hardship of living in warzones but the awful situation where medical facilities became targets. Last year there were at least 50 attacks on MSF or MSF supported hospitals. It is an ongoing and unacceptable outrage and the reason why MSF Japan launched the "Byoin Wo Utsuna" campaign and hosted an exhibition in Tokyo in October. We will continue to raise awareness and ask for support on this issue throughout 2017.

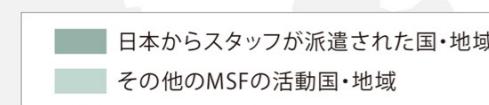
Knowing that we have the support of the people in Japan and across the world gives us not just the means but the added energy to continue to reach even more people in need and danger. We will continue to work to build the MSF community in Japan, and we shall remain, as ever, committed to providing medical care where it is needed, operating as an independent, neutral, and impartial organisation.

We're proud to share these values with you.

## MSF日本から派遣された107人が34の国・地域で援助活動を行いました

2016年、国境なき医師団(MSF)日本からは計107人のスタッフが、延べ156回、34の国・地域に派遣され、援助活動を行いました。

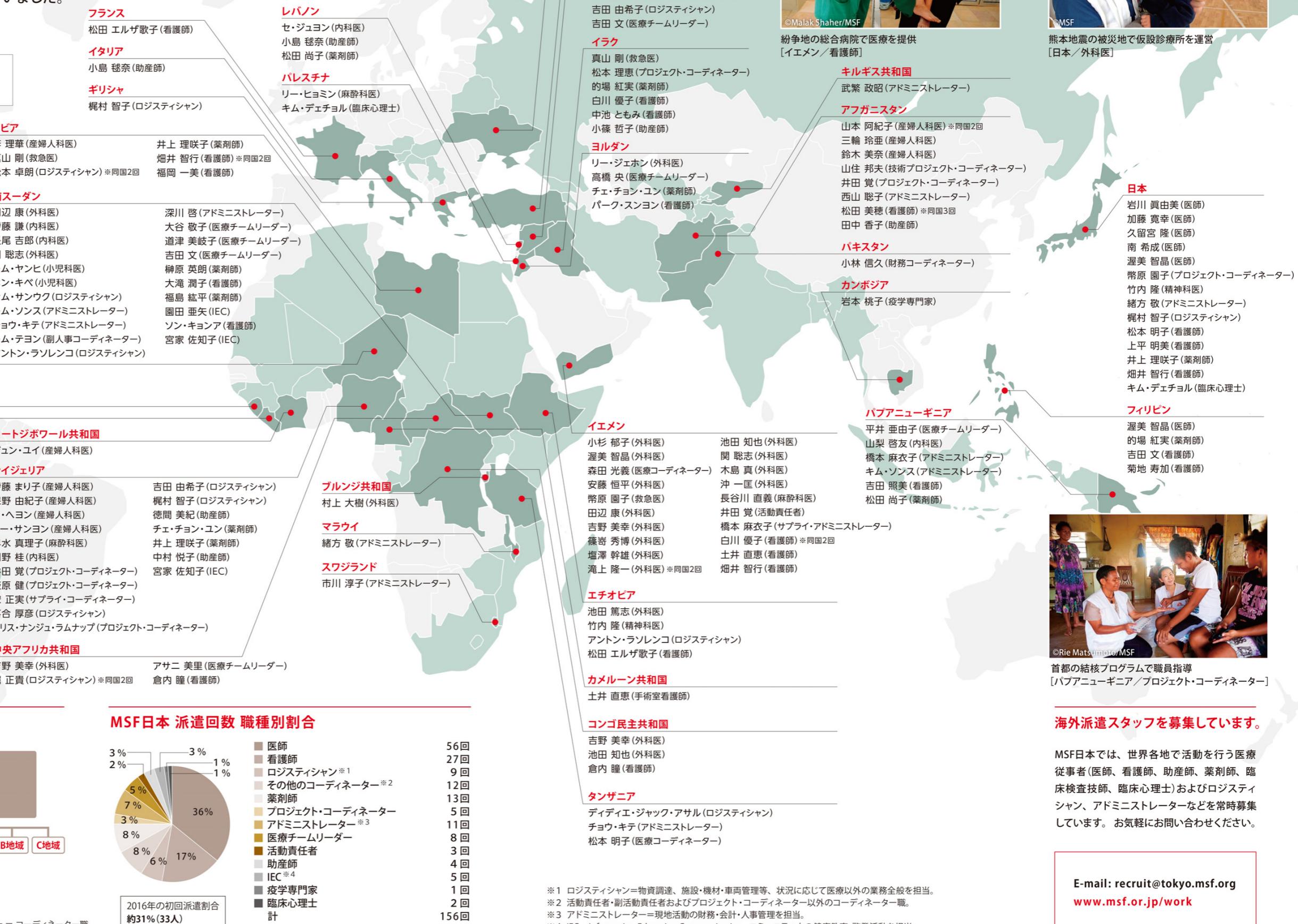
※リストは2016年に現地で活動を開始した人が対象。



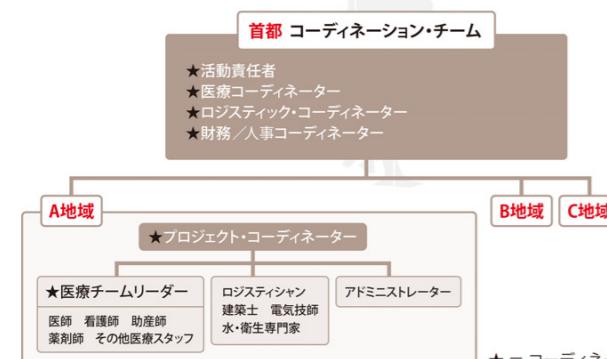
地中海の捜索・救助船で女性と子どもをケア  
[イタリア／助産師]



産科救急と産科フィスチュラ治療に従事  
[ナイジェリア／産婦人科医]



### MSF 現地活動組織図



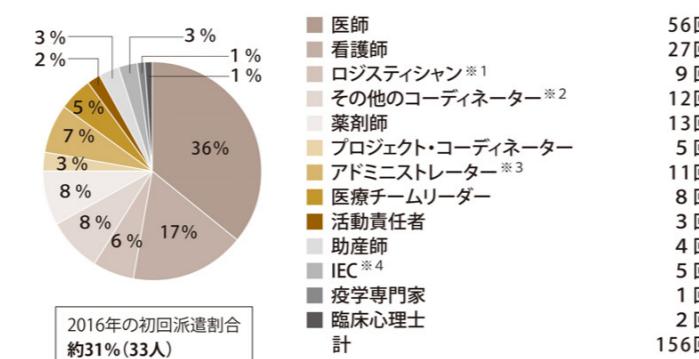
### 首都 コーディネーション・チーム

- ★活動責任者
- ★医療コーディネーター
- ★ロジスティック・コーディネーター
- ★財務／人事コーディネーター

A地域  
B地域  
C地域

★プロジェクト・コーディネーター  
★医療チームリーダー

### MSF日本 派遣回数 職種別割合



※1 ロジスティシャン=物資調達、施設・機材・車両管理等、状況に応じて医療以外の業務全般を担当。  
※2 活動責任者・副活動責任者およびプロジェクト・コーディネーター以外のコーディネーター職。  
※3 アドミニストレーター=現地活動の財務・会計・人事管理を担当。  
※4 IEC = Information Education Communication。コミュニティ内の健康教育・啓発活動を担当。



紛争地の総合病院で医療を提供  
[イエメン／看護師]

©MSF

熊本地震の被災地で仮設診療所を運営

[日本／外科医]



首都の結核プログラムで職員指導  
[バブアニューギニア／プロジェクト・コーディネーター]

### 海外派遣スタッフを募集しています。

MSF日本では、世界各地で活動を行う医療従事者(医師、看護師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士)およびロジスティシャン、アドミニストレーターなどを常時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

E-mail: recruit@tokyo.msf.org  
[www.msf.or.jp/work](http://www.msf.or.jp/work)

## 戦闘激化でやむなく退避 一刻も早く病院に戻りたい

松田美穂(看護師／アフガニスタン)

アフガニスタン、ヘルマンド州の州都ラシュカルガには、国境なき医師団(MSF)が同国保健省と共同で運営する、地域唯一の2次病院(300床)であるブースト病院があります。2016年6月下旬、私はここに看護師スーパーバイザーとして着任しました。治療費が無料で医療の質も保証されたブースト病院には、救急・重症以外の患者さんも来院し、大変な混雑となっています。救急は1日平均250人、多い日には500人を超えます。病院の各部署では外国人派遣スタッフと現地スタッフが疾病ごとにチームを組んでいます。外国人派遣スタッフが26人、現地スタッフが800人という大所帯ですが、よく連携できていると思いました。

しかしながら、8月上旬に政府軍と反政府軍の激しい戦闘があり、情勢が一気に不安定になりました。ラシュカルガが反政府勢力のターゲットになったのは初めてで、今後

の行方も不透明です。当然ながら、患者さんや現地スタッフもその影響を受けました。自宅と病院の間を3日間も行きつ戻りつしている間に手遅れになってしまった患者さんや、武力衝突によって家族や親戚を失ったスタッフもいます。戦闘自体がやんでも、すぐに平静に戻るわけではありません。道に地雷が埋められていることもあります。通院も通勤も命懸けなのです。この事態は地域の人びとの命をさらに危険にさらしています。

このような情勢悪化を受け、外国人派遣スタッフの数も10人程度まで縮小することになりました。私は他の十数人と共に退避の指示を受け、現在は、ヘルマンド州に隣接するカンダハル州で看護師のトレーニングなどを行っています。ブースト病院の看護師長に引き継ぎはしてきましたが、スタッフや機材のことで手いっぱいです。なかなか治療や看護に時間が割けないと情報も入ってきます。

現地の医療ニーズと病院の状況が分かっているだけに、心苦しい気持ちでいっぱいです。一刻も早く病院に戻り、患者さんの診療と現地スタッフのトレーニングに復帰したいと思います。MSFだからこそできる中立な役割も果たしたいと心から願っています。(2016年9月時点)

## 被災者の譲り合いの精神と 地元の医療従事者的心に敬服

畠井智行(看護師／熊本)

2016年4月14日、16日に最大震度7の揺れを観測した熊本地震の被災地には、当初、日本全国から多くのチームが駆け付け、十分に対応できているかに思いました。しかし国境なき医師団(MSF)の先発隊が19日に現地で情報収集をすると、熊本の南阿蘇村では小児科対応が不足していること、立野という地域は橋が壊れてアクセスが困難なため、避難している住民が震災直後から医療支援を受けられないことが判明し、MSFの活動が決まりました。

待機していた私はその日のうちに現地入りし、翌日には救援準備を整えました。南阿蘇村ではMSFに割り当てられた白水地区に診療所を立ち上げ、他団体の医師や薬剤師と協力しながら、地元の診療所が正常に稼働し、落ち着きを取り戻すまで運営しました。

活動中に感じたのは、日本人の譲り合いの精神です。「私

たちは大丈夫だから、あそこの家族を先に助けてあげて」という声をよく聞き、とてもうれしく、誇りに思いました。

私たちの活動は一時的な緊急援助であり、地元が自立するまでの橋渡しです。私たちのような外部からの支援に加え、熊本でも現地の看護師、薬剤師、保健師たちが当初から共に活動してくださいました。彼らはもともと地域医療を担っていて、地域の方たちを震災前から知っているため、こうした場面では重要な役割を担います。しかし忘れてはならないのは、彼らもまた被災者だということ。身体的にも精神的にも疲労している中、私たちと共に活動してくださったことに、人間として尊敬します。

このような緊急対応時は、毎日異なるチームが現地に入ります。そこで最も重要なことは、全体の指揮系統を一本化し、情報の共有を図り、活動効率を上げることです。熊本では毎日朝に夕に全チームの代表者が集まり、情報共有を行いました。

地震列島の日本。今後も東海地震などが予想されています。MSFとして、東日本大震災と熊本地震の教訓を生かし、国内での活動の問題点や基準を明確にし、最大限の対策を検討していきます。(2016年4月時点)

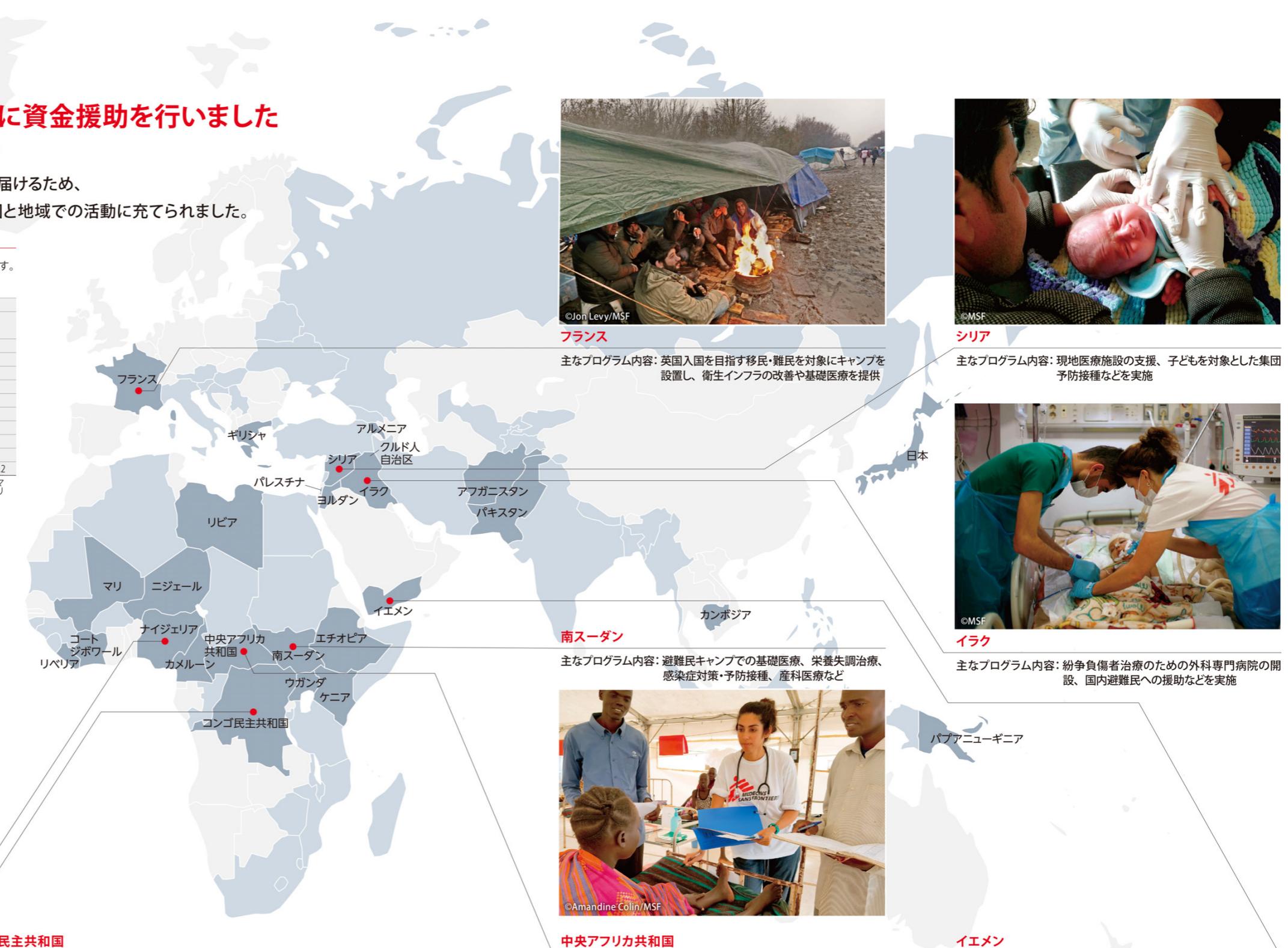
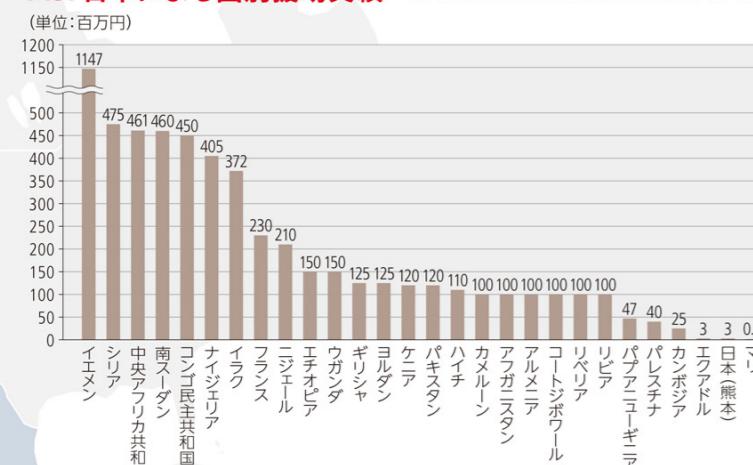


## MSF日本から、29の国・地域での活動に資金援助を行いました

2016年、国境なき医師団(MSF)日本に寄せられた資金は、紛争や貧困により危機にさらされた人びとに医療・人道援助を届けるため、プログラムを運営するオペレーション事務局を通じて、29の国と地域での活動に充てられました。

### MSF日本による国別援助実績

※国別援助実績の詳細はP.20に掲載しています。



### ナイジェリア

主なプログラム内容: 国内避難民キャンプでの大規模食糧援助、衛生インフラの整備、栄養失調治療など



### コンゴ民主共和国

主なプログラム内容: 黄熱病治療・予防、紛争による避難民への栄養失調治療、小児医療の提供や性暴力被害者の支援



### フランス

主なプログラム内容: 英国入国を目指す移民・難民を対象にキャンプを設置し、衛生インフラの改善や基礎医療を提供



### シリア

主なプログラム内容: 現地医療施設の支援、子どもを対象とした集団予防接種などを実施



### イラク

主なプログラム内容: 紛争負傷者治療のための外科専門病院の開設、国内避難民への援助などを実施



### 南スーダン

主なプログラム内容: 避難民キャンプでの基礎医療、栄養失調治療、感染症対策・予防接種、産科医療など



### イエメン

主なプログラム内容: 国内の病院や診療所を運営・支援し、紛争による外傷治療や基礎医療などを提供



## 集団予防接種活動で紛争下の子どもたちを守る

ティエリ・デュモン(活動責任者／中央アフリカ共和国)

中央アフリカ共和国では国境なき医師団(MSF)が同国保健省と連携し、大規模な予防接種活動を展開しています。ポリオ、破傷風、ジフテリア、百日咳、B型肝炎、はしかと肺炎と髄膜炎の特定菌株といった複数の病気から、5歳未満の子どもを守ることを目指しています。

紛争が2013年末に始まって以来、この国では深刻な医療不足への対処を余儀なくされてきました。人口の約半数は常に緊急援助を必要としています。予防接種率は大変低く、推奨されているワクチンを全て接種した1歳未満の子どもは、わずか13%にとどまっています。2012年から2014年の間に、はしかへの免疫を完全に獲得した子どもの数は64%から25%に落ち込みました。

国家の予防接種プログラムは難題を抱えています。診療所の多くはまともに機能していませんし、治安と輸送面の問題

は、医療物資の供給をさらに難しくしています。その上、最貧困層の世帯にとって医療費を負担することは全く無理なのです。

ワクチンの効力を保つには低温管理が不可欠です。気温が40度近くにまで上がる地域で、コールドチェーン(低温管理・輸送システム)を維持しなければならぬのは大変です。機材や消耗品も都市部から非常に遠い地域、しかも交通の便が悪い場所まで運ばなければなりません。さらに、6月に雨期が到来すると道路は通行不可能になり、集団予防接種は難しくなります。

治安も大きな課題です。散発的に武力衝突が起きている地域もありますし、町外れの路上などには武装強盗が出没するため、活動は大きな町に限られてしまします。

こうした状況の中、集団予防接種活動では既に7万3000人以上の子どもが接種を受けました。現在も各地域で推進しています。またMSFは家庭向けの啓発活動にも力を入れています。地域の指導者と密に連携し、MSFの診療所で定期予防接種を続けています。プログラムの目指すところはただ一つ、子どもたちを長年にわたり、予防できる病気から守ることです。(2016年3月時点)



### 中央アフリカ共和国

2013年末に激化した紛争により、現在も約40万人が国内で避難生活を送る。人口約490万人の過半数が人道援助を必要としており、MSFは合計17件の基礎医療および救急医療プログラムを続けている。



集団予防接種会場で注射を受ける男の子。  
©Pierre-Yves Bernard/MSF

## 恐怖と惨劇の中でも希望を失わず

アブー・ヤセル(仮名)(医療部長／シリア)

2016年12月5日、首都ダマスカス近郊、政府軍の包囲下にある東グータ地域のアル・マルジュ診療所の近くまで爆撃が及び、救急車2台と診療車2台が破壊されました。負傷者を他の医療施設に移送しようとした場合、どうしろというのでしょうか。以前は負傷や症状が重い救急患者を、対応能力のある12~15km先の医療施設に引き継ぐことができていました。救急車が使えないいま、状況が刻一刻と変わるもので重傷者が運ばれてくることが心配です。

シリア内戦が始まった頃から、私はアル・マルジュ診療所に勤務していました。この診療所は数年間で相当回数の紛争被害に遭っており、その頻度は診療所の中でも特に高いかもしれません。壁や天井には穴が開き、手術は地下階で行うようになっています。ここではおよそ2年前、診療所長と同僚1人の命が奪われました。入り口の脇で就寝していた

ところに砲弾が当たったのです。それから2年間で医師2人、清掃員1人、研修責任者1人、看護師3人の合計7人の仲間を亡くしました。こうした苦難もありながら業務を続けているのは、医療の提供が地域の人びとにとって重要なことです。

2015年にも爆撃を受けましたが、国境なき医師団(MSF)の支援のおかげで修復できました。しかし今年の11月、暴力が再び激化しました。「安全」と見なされて避難先となっていた地域が攻撃されたのです。昨日はある一家が運び込まれてきました。母親とおばは現在、集中治療室で治療を受けています。子ども2人は亡くなりました。この一家のような事例への対処は容易ではありません。死傷者の家族や医療スタッフの心はひどく傷ついており、精神保健面の支援がさらに求められます。

そんな不安の一方で、粘り強さも見られます。スタッフに「有給休暇の取得を認める」と伝えましたが、休んだ者は一人もおらず、皆、勤務の継続を希望したのです。私たちにはまだ希望を失っていません。ただ残念ながら、明るい兆しは見られません。それでも私たちは今後も最善を尽くしていきます。(2016年12月時点)



### シリア

2011年3月の反政府デモをきっかけに内戦が激化し、2016年夏までに1000万人以上が町を追われ、難民、国内避難民として過酷な生活を強いられている。MSFは2012年6月から援助活動を行っている。

シリア北部のアレppoでも病院爆撃が相次いた。2016年4月に空爆を受け、砂袋で補強されたアル・クッス病院。

2016年は4月の熊本地震に始まり、6月の英国によるEU離脱宣言、日銀によるマイナス金利政策、そして最後は11月の米国大統領選挙と、内外の社会・経済が大きく揺さぶられた1年でした。もたつく経済環境にもかかわらず、熊本地震の際をはじめ、多くの皆さまから多大なるご支援を頂き、おかげさまでMSF日本は資金拠出の面でも、2016年度もその使命（ミッション）を果たすことができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。以下、MSF日本における財務状況の概略について、決算結果を踏まえてご説明します。

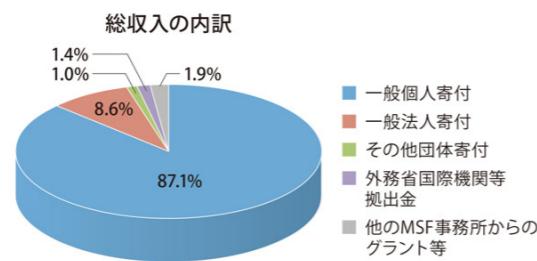
活動の原資となる経常収益は、79億8312万円で、前年比で4%減少しました。ただし、前年度は多額の現物寄付を含んでいたため、これを調整し、キャッシュベースで比較すると、3%の増加となります。

一方、総活動費としての経常費用は、82億1852万円で前期比6%増加しました。内訳は、プログラム支援金が58億2776万円、海外派遣スタッフ募集・派遣費7613万円、研究・開発費等が5273万円、広報活動およびアドボカシー活動費が4億6220万円、募金活動費14億4806万円、マネジメント・一般管理費として、3億3226万円（MSF韓国への活動支援金、MSFインターナショナルへの拠出金を含め）を計上しました。その結果、最終収支は、2億3539万円の赤字となり、結果として剩余金が同額減少しました。各活動ごとの詳細はP.21の正味財産増減計算書に記載の通りです。

なお、プログラム支援金は、オペレーション事務局のMSFフランス等を経由して、イエメン、シリア、中央アフリカ、南スーダンなど合計29の国・地域で運営された援助プログラムに配分されました。配分額等の詳細はP.20付表1をご参照ください。このように本報告を通して、財務の透明性を確保し、引き続き説明責任を果たしてまいります。

## 1. 総収入は79.8億円（前期比3.8%減）

総収入の内訳は、民間からの寄付収入が77.2億円、ほかに外務省からの助成金として1.1億円、MSF韓国からのグラント1.4億円およびその他の収入です。うち1.5円は非資金項目である現物寄付でした。

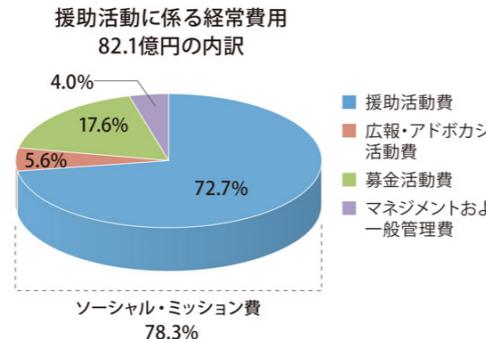


一般個人支援者数	277,039人
一般法人支援社数	9,188社
その他支援団体数	1,990団体
延べ支援者総数	288,217

支援者総数は、前年比で1.8%増加しました。寄付金以外にも、左記の通り、現物および役務・サービスの提供という形でのご支援を数多くいただきました。

## 2. 援助活動に係る総支出は82.1億円（前期比6.2%増）

MSF日本の、2016年度の活動別支出内訳は、右図の通りです。援助活動費、広報・アドボカシー活動費を合わせたソーシャル・ミッション支出は6.7%増え、計64.3億円、ソーシャル・ミッション・レシオは78.3%でした。（下記4. 参照）



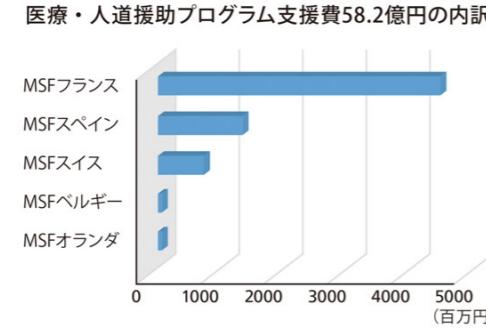
(百万円)	
① 援助活動費	5,976
・人道援助プログラム支援金	5,827
・スタッフ募集・派遣、研究・開発等	148
② 広報・アドボカシー活動費	462
③ ソーシャル・ミッション費計(①+②)	6,438
④ 募金活動費	1,448
⑤ マネジメントおよび一般管理費	332
援助活動に係る経常費用合計(③+④+⑤)	8,218

※詳細は、P.21～24に掲載の「主要財務諸表」をご参照ください。

## 3. 医療・人道援助プログラム支援金は総額58.2億円（前期比18.3%増）

MSF日本は2016年度、資金分配協定に基づき、パートナーシップ関係にあるMSFフランス、MSFスペイン、MSFイス、緊急支援としてMSFベルギーおよびMSFオランダに対し、総額58.2億円の支援金を配分しました。MSFベルギー、MSFオランダへの拠出には「緊急チーム募金」\*も含まれます。

\*自然災害、紛争激化、感染症流行などの緊急事態に即応する「緊急チーム」の活動を支援する募金。



※2016年度における支援金の国別配分額の詳細については、P.20をご参照ください。

## 4. ソーシャル・ミッション・レシオについて

ソーシャル・ミッションとは「社会的使命」という意味ですが、MSFはこのレシオ（比率）を、皆さまから“お預りした資金を医療・人道援助活動へ優先して充當しているか”を評価する基準として使っています。ソーシャル・ミッション支出（人道援助プログラム支援金、研究・開発費、海外派遣スタッフの募集・派遣費、広報・アドボカシー活動費等の合計額）を、その年度の総費用で除して算出します。全MSFの平均レシオは、80%超。MSF日本では現在78.3%ですので、平均水準に追いつくため、今後とも資金活用の効率性をより一層高めてゆく所存です。

In the year since the Kumamoto earthquake in April 2016, there were substantial social and economic shocks, both within Japan and abroad. The UK voted to leave the EU in June, a negative interest-rate policy was imposed by the Bank of Japan, and finally, there was the U.S. presidential election in November. Despite the sluggish economic environment, there has been a great deal of support from our many supporters, including in response to the Kumamoto earthquake. Thanks to this support, MSF Japan has been able to achieve its mission for FY2016, in terms of funding. We would like to take this opportunity to express our sincere gratitude. Below is a financial overview for MSF Japan based on our financial results.

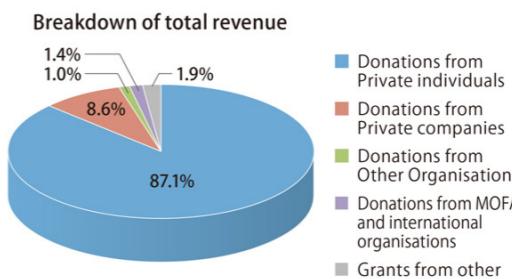
Operating revenue as capital for activities was JPY 7.98 billion, a decrease on the previous year of 4%. However, because the previous year included a large sum for gifts in kind, this becomes a 3% increase if adjusted and compared on a cash basis.

Meanwhile, operating expenses as the cost of all activities was JPY 8.21 billion, an increase on the previous year of 6%. This breaks down as JPY 5.82 billion for programme support, JPY 76.13 million for recruiting and sending staff for overseas activities, JPY 52.73 million for research and development, etc., JPY 462.20 million for témoignage and other advocacy activities, JPY 1.44 billion for fundraising activities, and JPY 332.26 million for management and general administration expenses (including support for MSF South Korea activities and contributions to MSF International). As a result, the final income and expenditure for the year was JPY 235.39 million in the red, meaning that excess funds have decreased by this amount. Details of each of our activities are as stated in the statement of financial activities on MSF Japan website.

Funds for programme support have been allocated, via the operational sections of MSF France and others, to support programmes conducted in a total of 29 countries and regions, including Yemen, Syria, the Central African Republic and South Sudan. Please see Table 1 on P20 for details of the amounts allocated. Through the report we will continue to fulfil our duty of accountability and ensure financial transparency.

## 1. Total revenue was JPY 7.98 billion (decreased 3.8% on the previous year)

The total revenue breaks down as JPY 7.72 billion in contributions from the private-sector, as well as JPY 110 million in support from the Ministry of Foreign Affairs (MOFA), a grant of JPY 140 million from MSF South Korea, and other revenue. Of this, JPY 150 million was non-monetary gifts in kind.

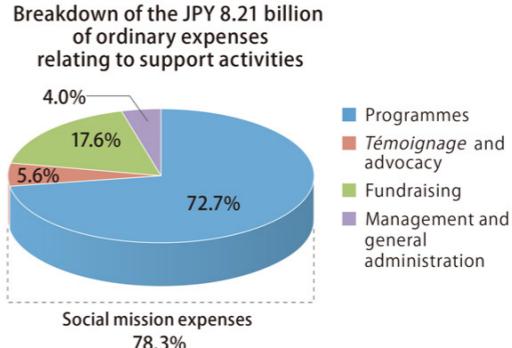


Private individuals	277,039
Private companies	9,188
Other organisations	1,990
Total number of donors	288,217

The total number of donors increased by 1.8% compared to the previous year. In addition to contributions, as shown on the left, a large amount was received in terms of the provision of items, labour, and services.

## 2. Total expenditure relating to support activities was JPY 8.21 billion (increased 6.2% on the previous year)

Expenditure per activity in FY2016 by MSF Japan breaks down as per the table on the right. Support activity expenses increased by 6.7% for our social mission, combined with publicity and advocacy costs, to a total of JPY 6.43 billion; the social mission ratio was 78.3% (see 4. below).

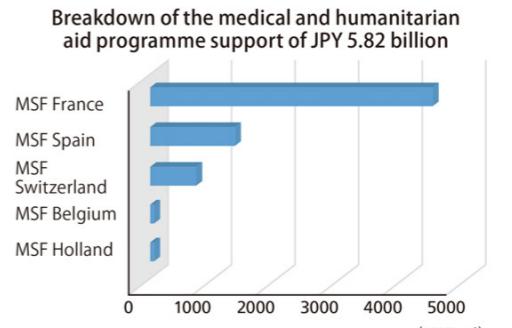


(JPY mil)	
① Programmes	5,976
• Humanitarian aid programme support	5,827
• Field HR management, R&D	148
② Témoignage and advocacy	462
③ Social mission(①+②)	6,438
④ Fundraising	1,448
⑤ Management and general administration	332
Total ordinary expenses relating to support activities	8,218

\* For details, please see "Major Financial Statements" on MSF Japan website.

## 3. Medical and humanitarian aid programme support totalled JPY 5.82 billion (increased 18.3% on the previous year)

In FY2016, MSF Japan allocated a total of JPY 5.82 billion to MSF France, MSF Spain, and MSF Switzerland in partnership-related areas based on our funding allocation agreements, and to MSF Belgium and MSF Holland as emergency support. The contributions to MSF Belgium and MSF Holland also include "emergency team fundraising."



(JPY mil)	
MSF France	4,217
MSF Spain	1,080
MSF Switzerland	520
MSF Belgium	5
MSF Holland	5

\*For details of the per-country allocation of support funds in FY2016, please see P20.

## 4. Regarding the social mission ratio

The ratio for MSF's social mission is based on the belief that "funding we receive should be allocated preferentially to medical and humanitarian assistance activities." Social mission expenditure (the total of humanitarian aid programme support, research and development, recruitment and dispatch of staff overseas, témoignage and advocacy, and other such expenses) is calculated by division by the total expense for the year. The average ratio across the whole of MSF is just over 80%. MSF Japan is currently at 78.3%. We intend to further increase the effectiveness of our use of funding going forward.

## 付表 1. MSF日本による2016年度の医療・人道援助プログラム支援金の配分先

MSF日本が2016年度に拠出したプログラム支援金58.2億円は、以下の29の国・地域で稼働中の各プログラムに配分されました。  
The following table lists the countries and programmes to which MSFJ allocated JPY 5.82 billion of grants in FY2016.

(百万円/JPY mil) (MSFフランス:FR, MSFスペイン:SP, MSFスイス:CH, MSFベルギー:BE, MSFオランダ:NL)			
国/地域 Country/Region	金額 Amount	2016年度の主要プログラム Major programmes under operation in FY2016	オペレーション事務局 Operational Sections
<b>アフリカ Africa</b>	中央アフリカ共和国 Central African Republic	461.1 基礎医療/結核/マラリア/HIV/エイズ Primary healthcare/Tuberculosis/malaria/HIV/AIDS	FR
	南スーダン South Sudan	460.0 国内避難民への基礎医療・はしか・マラリア Primary healthcare, measles and malaria for IDP	FR/CH
	コンゴ民主共和国 Democratic Republic of the Congo	450.0 はしか/コレラ/マラリア/母子保健 Measles/cholera/malaria/mother & child healthcare	FR/CH
	ナイジェリア Nigeria	405.0 産婦人科/性暴力/栄養失調 Maternity/Sexual violence/malnutrition	FR/SP
	ニジェール Niger	210.0 小児科/栄養失調/Malaria Pediatric/malnutrition/malaria	FR/CH
	エチオピア Ethiopia	150.0 コレラ/栄養失調 Cholera/malnutrition	FR
	ウガンダ Uganda	150.0 難民への外来診療・マラリア/産婦人科 OPD, HIV/AIDS, malaria and maternity for South Sudanese refugees	FR
	ケニア Kenya	120.0 結核/性暴力/HIV/エイズ Tuberculosis/sexual violence/HIV/AIDS	FR
	カメルーン Cameroon	100.0 ボコ・ハラムから逃れた難民への栄養治療 Nutrition therapy for refugees fleeing from Boko Haram	CH
	コートジボワール Côte d'Ivoire	100.0 産婦人科 Maternity	FR
<b>リベリア Liberia</b>	リベリア Liberia	100.0 エボラ生存者への医療・心理ケア Medical and psychological care for Ebola survivors	FR
	リビア Libya	100.0 産婦人科 Maternity	FR
	マリ Mali	0.2 マラリア/栄養失調 Malaria/malnutrition	FR
	計 Total	2,806.3	
	総計 Total	2,806.3	
<b>中東 Middle East</b>	イエメン Yemen	1,147.0 外科・産婦人科/紛争負傷者緊急医療 Surgery and maternity/emergency care for the war-wounded	FR/SP
	シリア Syria	475.0 国内避難民への外科・産婦人科・緊急外来 Surgery, maternity and emergency outpatient for IDP	FR/SP
	イラク・クルド人自治区 Iraq-Kurdistan	372.0 シリア難民への緊急医療・支援物資配給 Emergency care and relief goods distribution for Syrian refugees	FR
	ヨルダン Jordan	124.9 緊急外来/産婦人科 Emergency outpatient/Maternity	FR
	パレスチナ Palestine	40.0 理学療法/特殊外科 Physiotherapy/specialised surgical care	FR
<b>ヨーロッパ Europe</b>	フランス France	230.0 難民キャンプ設営/移動診療 Refugee camp construction/mobile clinic	FR
	ギリシャ Greece	125.0 難民への外来診療・心理ケア Outpatient and psychological care for refugees	FR
	計 Total	355.0	
<b>中南米 The Americas</b>	ハイチ Haiti	110.0 烫傷外科/ハリケーン・マシュー被災者援助 Burn surgery/Emergency care for the victims of Hurricane Matthew	FR/BE/NL
	エクアドル Ecuador	3.0 地震被災者緊急援助 Emergency medical care for the victims of the earthquake	SP
	計 Total	113.0	
<b>アジア Asia</b>	パキスタン Pakistan	120.0 小児外来/産婦人科/外科 Pediatric outpatient/maternity/surgery	FR
	アルメニア Armenia	100.0 結核/多耐性結核 Tuberculosis/Multidrug-resistant tuberculosis	FR
	アフガニスタン Afghanistan	100.0 産婦人科/新生児科 Maternity/Neonatal	FR
	カンボジア Cambodia	24.9 C型肝炎 Hepatitis C	FR
	日本 Japan	3.0 熊本地震被災者緊急援助 Emergency medical care for the victims of Kumamoto earthquake	FR
<b>オセアニア Oceania</b>	パプアニューギニア Papua New Guinea	46.6 多剤耐性結核治療 Medical care for Multidrug-resistant tuberculosis	FR
	計 Total	46.6	
総計 Total		5,827.7	

## 独立監査人の監査報告書

2017年3月17日

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本  
会長 加藤 寛幸 殿有限責任あづさ監査法人  
指定有限責任社員 公認会計士 野村 哲明  
業務執行社員

当監査法人は、特定非営利活動法人 国境なき医師団日本の2016年1月1日から2016年12月31日までの2016年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、財務諸表に対する注記及び財産目録について監査を行った。

## 財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任  
当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見  
当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表に係る期間の財産、正味財産増減及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。利害関係  
特定非営利活動法人 国境なき医師団日本と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

\*Financial Report in English is available on MSF Japan website.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

## 正味財産増減計算書

自 2016年1月1日 至 2016年12月31日

科 目	当 年 度		前 年 度		(単位:円) 増 減 比率	
	金 額	構成比	金 額	構成比		
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
① 寄付収入	7,722,444,018	100.0%	8,042,596,698	100.0%	△ 320,152,680 △4.0%	
一般個人寄付(注1)	6,952,407,243	90.0%	6,573,986,693	81.7%	378,420,550 5.8%	
一般法人寄付(注1)	690,057,434	9.0%	1,372,728,647	17.1%	△ 682,671,213 △49.7%	
その他団体寄付(注1)	79,979,341	1.0%	95,881,358	1.2%	△ 15,902,017 △16.6%	
② 助成金等による収入	259,036,560		245,575,499		13,461,061 5.5%	
外務省国際機関等拠出金(注2)	113,310,000		241,500,000		△ 128,190,000 △53.1%	
他のMSF事務所からのグランツ等(注3)	145,726,560		4,075,499		141,651,061 3,475.7%	
③ その他の収入	1,648,448		7,167,671		△ 5,519,223 △77.0%	
講演会による収入	1,012,745		4,156,165		△ 3,143,420 △75.6%	
アソシエーション会費収入	480,000		465,000		15,000 3.2%	
利息収入等	155,703		2,546,506		△ 2,390,803 △93.9%	
経常収益 合計	7,983,129,026		8,295,339,868		△ 312,210,842 △3.8%	
(2) 経常費用						
■ ソーシャル・ミッション (①+②+③+④+⑤)	6,438,193,167	78.3%	6,035,736,874	78.0%	402,456,293 6.7%	
① 援助活動費	5,847,113,250	71.1%	5,623,947,743	72.7%	223,165,507 4.0%	
人道援助プログラム支援金(注4)	5,827,760,578		4,927,034,477		900,726,101 18.3%	
他MSF団体への現物寄付	-		672,033,600		△ 672,033,600 △100.0%	
DNDIへの支援金	19,352,672		24,879,666		△ 5,526,994 △22.2%	
② 研究・開発費等(人件費等)(注5)	52,732,312	0.6%	26,421,375	0.3%	26,310,937 99.6%	
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務	76,137,973	0.9%	75,840,017	1.0%	297,956 0.4%	
人件費	50,093,738		42,509,604		7,584,134 17.8%	
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	26,044,235		33,330,413		△ 7,286,178 △21.9%	
④ アドボカシー活動費	68,946,068	0.8%	68,485,660	0.9%	460,408 0.7%	
人件費	44,474,128		40,888,348		3,585,780 8.8%	
必須医薬品キャンペーン支援金	24,471,940		27,597,312		△ 3,125,372 △11.3%	
⑤ 広報活動費	393,263,564	4.8%	241,042,079	3.1%	152,221,485 63.2%	
人件費	81,393,919		66,926,683		14,467,236 21.6%	
ニュースレター・イベント等による広報活動費(注5)	252,837,818		58,514,577		194,323,241 33.2%	
ウェブサイト管理費	29,622,107		9,671,509		19,950,598 206.3%	
業務委託手数料等	10,507,677		28,904,501		△ 18,396,824 △63.6%	
印刷費	101,400		44,299,241		△ 44,197,841 △99.8%	
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	18,800,643		32,725,568		△ 13,924,925 △42.6%	
■ 募金活動費	1,448,060,591	17.6%	1,301,362,564	16.8%	146,698,027 11.3%	
人件費	142,030,328		114,105,689			

## 財務報告(主要財務諸表)

Financial Report (Major Financial Statements)

\*Financial Report in English is available on MSF Japan website.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

## 貸借対照表

2016年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	増 減 比
<b>I. 資産の部</b>				
1. 流動資産				
現金及び預金	1,186,190,987	1,412,488,641	△ 226,297,654	△16.0%
未収入金(注1)	247,010,812	99,349,257	147,661,555	148.6%
前払費用	10,615,582	7,746,553	2,869,029	37.0%
立替金(注2)	117,502,991	84,650,686	32,852,305	38.8%
その他流動資産	13,875,593	13,609,449	266,144	2.0%
<b>流動資産合計</b>	<b>1,575,195,965</b>	<b>1,617,844,586</b>	<b>△ 42,648,621</b>	<b>△2.6%</b>
2. 固定資産				
1) 特定資産				
支援者情報管理システム開発積立資金(注3)	-	61,560,000	△ 61,560,000	△100.0%
<b>特定資産合計</b>	<b>-</b>	<b>61,560,000</b>	<b>△ 61,560,000</b>	<b>△100.0%</b>
2) その他固定資産				
建物附属設備	4,852,869	7,804,056	△ 2,951,187	△37.8%
事務用什器・備品	12,462,023	14,615,100	△ 2,153,077	△14.7%
ソフトウェア	51,494,517	9,184,422	42,310,095	460.7%
リース資産	-	891,064	△ 891,064	△100.0%
長期差入保証金等	46,823,780	31,613,970	15,209,810	48.1%
<b>固定資産合計</b>	<b>115,633,189</b>	<b>125,668,612</b>	<b>△ 10,035,423</b>	<b>△8.0%</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,690,829,154</b>	<b>1,743,513,198</b>	<b>△ 52,684,044</b>	<b>△3.0%</b>
<b>II. 債負の部</b>				
1. 流動負債				
未払金(注4)	625,910,585	454,456,036	171,454,549	37.7%
預り金等	2,179,311	1,491,543	687,768	46.1%
短期リース債務	-	930,201	△ 930,201	△100.0%
<b>流動負債合計</b>	<b>628,089,896</b>	<b>456,877,780</b>	<b>171,212,116</b>	<b>37.5%</b>
2. 固定負債				
退職給付引当金	34,640,100	23,142,900	11,497,200	49.7%
<b>固定負債合計</b>	<b>34,640,100</b>	<b>23,142,900</b>	<b>11,497,200</b>	<b>49.7%</b>
<b>負債合計</b>	<b>662,729,996</b>	<b>480,020,680</b>	<b>182,709,316</b>	<b>38.1%</b>
<b>III. 正味財産の部</b>				
指定正味財産	-	-	-	-
一般正味財産	1,028,099,158	1,263,492,518	△ 235,393,360	△18.6%
うち特定資産への充当額	-	61,560,000	△ 61,560,000	△100.0%
<b>正味財産合計</b>	<b>1,028,099,158</b>	<b>1,263,492,518</b>	<b>△ 235,393,360</b>	<b>△18.6%</b>
<b>負債および正味財産合計</b>	<b>1,690,829,154</b>	<b>1,743,513,198</b>	<b>△ 52,684,044</b>	<b>△3.0%</b>

(注1) MSF韓国からのグラント、および、外部の委託業者により支援者からの回収が済んでいる寄付金(支援者口座からの引落しは、当年度末日までに完了)のうち、当年度末日現在、同委託業者から未入金のもの。

(注2) MSFフランス、MSFイスラムのオペレーション事務局に対して、国内で立替えられた海外派遣スタッフに関する経費等である。

(注3) 前年度から繰り越された積立資金は全額取り崩し、当年度から着手した支援者情報管理システム開発の一一部コストの支払いに充当した。

(注4) MSFフランスに対する、プログラム支援金200百万円およびMSF韓国への活動支援金98.5百万円を含む。

## 財務諸表に対する注記

## 1. 財務諸表の作成基準

国境なき医師団日本 (Médecins Sans Frontières Japon、以下"MSF日本") の財務諸表は、日本において一般に公正妥当と認められる公益法人会計基準(平成16年10月14日改正)に基づいて作成されている。同基準は国際財務報告基準 (International Financial Reporting Standards) が求める適用要件や開示上の要件とは、いくつかの点で相違している。

## 2. 重要な会計方針

## (1) 固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産  
定額法によっている。(耐用年数は建物附属設備および什器は3~5年、器具備品およびビデオ機器は3年)
- ②ソフトウェア  
定額法によっている。(耐用年数は3年)

## (2) 引当金の計上基準

- 退職給付引当金  
職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

## (3) 収益の認識

寄付收入は原則として、現金主義に基づき認識している。ただし、一部の未収寄付金のうち送金通知書により回収額およびMSF日本への入金時期が確定し、かつ支援者に領収書を発行しているものについては、当期の収益として認識している。

## 現物寄付の扱い

MSF日本は金銭以外にも、現物寄付として、医薬品、ICT機器、ソフトウェア、マイレージ、切手等、株主優待券およびプロボノによる役務提供の支援を受けている。これらの現物寄付は取得時に合理的に価額を見積もり、"寄付收入"として認識し、事業供用時に費用を計上している。

## (4) 経常費用について

費用については、以下の主要な事業活動別に区分して表示している。なお、各事業活動に共通の間接経費については、年間実労働時間に基づいて算出した、各事業活動別の総職員数で按分し、それぞれ以下の事業活動に配分している。

## (4)-1) ソーシャル・ミッション

- ①援助活動費  
パートナーシップ協定を結ぶオペレーション事務局である、MSFフランス、MSFスペイン、MSFイスラム、MSFベルギー、およびMSFオランダが世界各国・地域で運営する、人道援助プログラムに対し支援金を供与している。

## ②研究・開発費(R&amp;D: Research and Development)

アジアを含む世界各地での人道援助活動に寄与すべく、医療およびロジスティクスの面で、革新的な研究・開発、また創意工夫による改善に取り組むと共に、活動地で用いる物資を日本から直接調達する可能性についても検討を開始した。

## ③海外派遣スタッフ募集・派遣業務

MSF日本は5つのオペレーション事務局の人材ニーズに応じ、フィールドにて人道援助プログラムに従事するスタッフの採用手続き、海外派遣説明会等を実施するとともに、ビザ取得等の渡航準備、および各種の渡航前国内トレーニングを実施した後に海外現地に派遣している。

## ④アドボカシー活動費

- ④-a) MSFの各事務局と連携し、各国民政府、国際機関、製薬会社等に対し、働きかけを行っている。

## ④-b) 必須医薬品キャンペーン(The Access Campaign)への資金援助

同キャンペーンは、MSFが1999年以来全世界規模展開しているもので、さまざまな感染症で苦しむ人びとに安価で効果的な治療薬を提供できるよう、各国民政府、国際機関、製薬会社に対して働きかけを行っている。MSF日本も他の事務局とともに応分の資金援助をしており、取りまとめは、MSFインターナショナル事務局が行っている。

## ⑤広報活動費

MSF日本は、主要なミッションの一つとして、世界各地での人道的医療援助活動の現場での最新情報について、出版物、ウェブサイト、展示会ならびに各メディアを通して、既存の支援者および一般社会等に対して周知活動を行っている。

## (4)-2) 募金活動費

MSF日本は、援助活動に充てる十分な資金を確保するため、さらなる支援者を募ることを目的として、ダイレクトメールおよび既存の支援者向けのニュースレター・送付等による募金キャンペーンを行っている。

## (4)-3) マネジメントおよび一般管理費

マネジメント、および人事・財務・総務・ICT等の管理部門の間接経費、およびMSFインターナショナル事務局の経費負担分などである。同事務局はネットワークで結ばれたMSF全事務局およびその他の関連組織の間の調整業務を担う組織で、その運営費については、MSFの全事務局が応分の負担をしている。

## (5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

## 3. 為替変動リスクのヘッジ

MSF日本は、人道援助プログラム支援金の送金に際し、外国為替の変動による外貨換算額への影響を緩和する為に、適宜先物為替取引を活用している。なお、投機目的では使用しない。

## 4. 表示方法の変更(「正味財産増減計算書」について)

前年度において、ソーシャル・ミッション、⑤広報活動費の中で、「ニュースレター等費用」、「業務手数料等」として、また募金活動費の中で「ダイレクトメール、ニュースレター等費用」、「業務手数料等」、「通信及び搬送費」として表示していた経常費用は、活動内容の明瞭性を高めるため、当年度より、それぞれ、広報活動費:「ニュースレター・イベント等による広報活動費」、「業務委託手数料」、募金活動費:「ファンディング・キャンペーん費」、「業務委託手数料およびシステム関連費」、「通信および書類等発送費」として表示している。

## 5. 基本財産および特定資産の増減額およびその内訳

当年度末において、指定正味財産として受け入れた資産のうち、基本財産および特定資産として区分・運用しているものはない。なお、前年度において、特定資産として固定資産の部に区分掲記した、支援者情報管理システム開発資金の一部は、当年度において当該開発プロジェクトの資金に充当した。

## 財務報告(主要財務諸表)

Financial Report (Major Financial Statements)

\*Financial Report in English is available on MSF Japan website.

## 6. 担保に供している資産

該当事項はない。

## 7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当期末残高

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	7,865,391	3,012,522	4,852,869
事務用什器・備品	52,895,838	40,433,815	12,462,023
什器	10,795,077	7,080,166	3,714,911
器具・備品	35,761,432	31,313,930	4,447,502
ビデオ機器	6,339,329	2,039,719	4,299,610
ソフトウェア	107,870,791	56,376,274	51,494,517
小 計	168,632,020	99,822,611	68,809,409
リース資産(ドナー情報管理システム等)	63,392,091	63,392,091	-
総 計	232,024,111	163,214,702	68,809,409

## 8. 退職給付引当金

## (1) 採用している退職給付金制度の概要

内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。

## (2) 退職給付債務およびその内訳

退職給付債務 34,640,100円、退職給付引当金 34,640,100円

## (3) 退職給付費用

11,497,200円

## 9. 保証債務等の偶発債務

該当事項はない。

## 10. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

該当事項はない。

## 11. 関連当事者との取引の内容

該当事項はない。

## 12. 重要な後発事象

該当事項はない。

## 13. 当年度の人道援助プログラム支援金の配分内訳

オペレーション事務局	個人からの寄付 <sup>(注1)</sup>	法人等からの寄付 <sup>(注1)</sup>	公的助成金	MSF韓国からのグランツ <sup>(注2)</sup>	合 計
MSFフランス	3,564,794,112	396,088,235	111,151,671	145,726,560	4,217,760,578
MSFスペイン	972,000,000	108,000,000	-	-	1,080,000,000
MSFスイス	468,000,000	52,000,000	-	-	520,000,000
MSFベルギー	5,000,000	-	-	-	5,000,000
MSFオランダ	5,000,000	-	-	-	5,000,000
合計	5,014,794,112	556,088,235	111,151,671	145,726,560	5,827,760,578

(注1) 「個人からの寄付」、「法人等からの寄付」の区分は、按分計算による。

(注2) MSF韓国との取引については、以下14. をご参照。

## 14. MSF韓国との取引

当年度において、MSF日本は、MSF韓国に対し活動支援費として、計98,597,677円を拠出した。一方、2016年度の韓国国内での民間寄付収入のうち、計145,726,560円相当分がグランツとしてMSF日本に配分された。この資金配分は、MSFスイスとの覚書に基づくもので、収入として経常収益の部に計上している。

## 15. リザーブ・ポリシー(剩余金の方針)

MSF日本はリザーブ・ポリシーに従い、一般正味財産(以下、剩余金)として、海外への支援金等を除いた年間国内総経費の月平均の、5ヵ月相当分を保持する。緊急援助活動や、予期せぬ経済変動による資金需給への影響を緩和するためである。なお、前期から繰り越された剩余金は、当年度中にプログラム支援金に充当した。また、当年度末の剩余金水準は、5.4ヵ月である。

## MSFワールドワイド

2015年の  
活動概況と財務

※ P.26、27、29は、MSF全事務局の活動を網羅した『MSF ACTIVITY REPORT 2015』(英語)の抜粋です。  
2016年の実績は2017年7月に発表の予定です。

## 2015年、MSFは69の国と地域で活動しました

2015年、国境なき医師団(MSF)は、69の国と地域で医療・人道援助プログラムを実施しました。

多様なニーズに対応すべく、MSFは毎年数多くのプログラムを開始あるいは終了、

また、1つの国で複数のプログラムを実施することもあります。活動地では常に状況の変化を観察し、可能な場合には現地保健当局や他のNGOなどにプログラムの引き継ぎを行っています。



ハイチ

外傷治療、産科を含む基礎医療、コレラの監視・対応



ニジェール

髄膜炎流行への対応、難民や暴力被害者への援助



中央アフリカ共和国

紛争による壊滅的な医療環境に長期プログラムで対応



© Lexie Cole/MSF

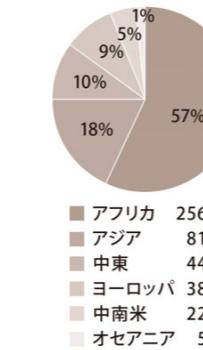
### MSFの活動概況(2015年実績)

※小数点以下は四捨五入。

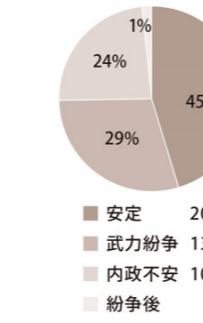
#### 活動規模が大きい10の国 (プログラム支出額順)

1. コンゴ民主共和国
2. 南スーダン
3. 中央アフリカ共和国
4. イエメン
5. ハイチ
6. イラク
7. ニジェール
8. アフガニスタン
9. レバノン
10. エチオピア

#### 大陸別プログラム数



#### 活動地の情勢



※アジアにはコーカサス地方を含む。



### MSFのネットワーク(2017年3月現在)

MSFは世界28カ国に事務局を持つ国際的な組織です。

本部は存在せず、それぞれの事務局が憲章に基づき、独立して活動を行いながら、緩やかなネットワークで結ばれています。

#### オペレーション事務局

プログラムの運営を担当し、医療チームを編成・派遣する。  
パートナー事務局の機能も併設している。

オランダ スイス スペイン フランス ベルギー

#### パートナー事務局

活動に参加するスタッフを募集・派遣するほか、広報活動、募金活動を行う。

アイルランド	米国	アラブ首長国連邦	アルゼンチン	英国
イタリア	インド	オーストラリア	オーストリア	カナダ
韓国	ギリシャ	スウェーデン	チェコ	デンマーク
ドイツ	日本	ノルウェー	ブラジル	香港
南アフリカ共和国	メキシコ	ルクセンブルク		

#### MSFインターナショナル

事務局間の調整を行う機関(スイス)。

ロジスティックセンター(フランス、ベルギーほか)
物資の購入、管理、輸送を担当し、効率的な援助活動のための物資調達を支える。
エビセンター(フランス)
科学・疫学研究組織。MSFの活動地で得られた医学的情報の分析や調査研究報告などを行い、医療活動に関する技術革新を推進している。

## MSF結合ベースの活動実績について

国境なき医師団(MSF)の5つのオペレーション事務局は、2015年度、69の国と地域で人道援助プログラムを運営しました。個々のプログラムは、MSF日本を含めた28事務局の財政的および人的支援によって支えられています。

こうしたMSFの1年間のグローバルな活動の結果としての財政状態および経営成績は、スイスにあるMSFインターナショナル事務局により、国際財務報告基準に準じた結合ベースの年次報告書『国際版財務報告』としてまとめられ、監査法人であるKPMGおよびErnst & Youngの共同監査を受けた後に公表されています。

この結合ベースの年次会計報告書は、5つのオペレーション事務局の各活動地のプログラムごとの個別の決算数値を取りまとめ、オペレーション事務局を含めた全事務局の個別決算書の結合から、会計監査に至るまでの手続きに時間をするため、翌事業年度においてMSF日本のウェブサイトにて紹介しています。ここでは、2015年度の結合決算書から抜粋し、要約のための組み替えを行った「財務活動計算書」(いわゆる損益計算書)を掲載します。

『2015年度版 国境なき医師団 国際版財務報告』(英文／和文サマリー)はこちらからダウンロードできます。⇒ [www.msf.or.jp/library/annualreport/](http://www.msf.or.jp/library/annualreport/)

## 2015年度 結合ベースMSF「財務活動計算書」(要約)

	2015 (千ユーロ)	2014 (千ユーロ)	増 減 (千ユーロ)	2015 円換算額 <sup>(注3)</sup> (百万円)
<b>I. 経常収益</b>				
1)個人支援者からの収入(MSF日本など全事務局の収入を含む)	1,123,525	984,783	138,742	150,901
・一般個人寄付	972,984	857,057	115,927	130,681
・遺贈	150,298	127,532	22,766	20,187
・会費	242	194	48	33
2)民間機関からの寄付収入(MSF日本など全事務局の寄付収入を含む)	208,577	156,910	51,667	28,014
・一般法人	87,196	62,780	24,416	11,711
・信託・財団等	70,842	58,377	12,465	9,515
・その他	50,540	35,753	14,787	6,788
1)～2) 計	1,332,102	1,141,693	190,409	178,915
3)公的機関からの収入 <sup>(注2)</sup>	94,634	114,659	△ 20,025	12,710
4)その他収入	17,081	23,988	△ 6,907	2,294
・利息収入および余資運用益	8	4,257	△ 4,249	1
・設備売却および役務提供による収益	10,580	10,752	△ 172	1,421
・物品販売その他のによる収益	6,492	8,979	△ 2,487	872
<b>経常収益 合計</b>	<b>1,443,817</b>	<b>1,280,340</b>	<b>163,477</b>	<b>193,919</b>
<b>II. 経常費用</b>				
1)ソーシャル・ミッション	1,057,618	858,145	199,473	142,049
■ 援助活動費				
・人道援助プログラム支援費(MSF日本など全事務局からの支援金を含む)	872,248	699,074	173,174	117,152
・各事務局によるプログラム・サポート費	134,811	113,921	20,890	18,106
・その他の人道援助活動費	13,314	14,088	△ 774	1,788
<b>援助活動費 合計</b>	<b>1,020,374</b>	<b>827,083</b>	<b>193,291</b>	<b>137,046</b>
■ 広報活動費				
2)募金調達活動費	37,244	31,063	6,181	5,002
3)マネジメントおよび管理費	163,812	147,186	16,626	22,002
4)所得税	61,320	60,204	1,116	8,236
<b>経常費用 合計</b>	<b>1,282,760</b>	<b>1,066,088</b>	<b>216,672</b>	<b>172,287</b>
為替差損	5,694	9,654	△ 3,960	765
<b>差引正味財産当期増減額</b>	<b>166,750</b>	<b>223,906</b>	<b>△ 57,156</b>	<b>22,396</b>

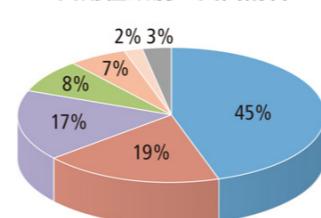
(注1) 上掲の計算書は日本で監査を受けたものではない。

(注2) 公的機関には、欧州委員会人道支援事務局(ECHO)、およびオーストリア、ベルギー、カナダ、チェコ、デンマーク、フランス、ドイツ、オランダ、アイルランド、イタリア、日本、ルクセンブルク、スペイン、スウェーデン、および英国の各政府等が含まれる。

(注3) 1ユーロ = 134.31円で換算。(10万円以下は四捨五入)

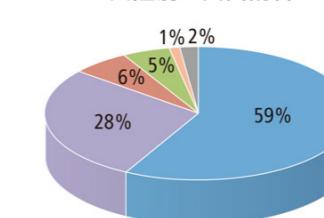
## 支出内訳 (活動地におけるプログラムおよび調整チームの支出)

費用種類別の支出割合



■ 人件費  
■ 医療・栄養治療費  
■ 交通・貨物輸送・倉庫保管料  
■ 事務所経費  
■ 救援物資・衛生管理費  
■ 広報活動費  
■ その他

大陸別の支出割合



■ アフリカ  
■ アジア  
■ ヨーロッパ  
■ 北米・中南米  
■ オセアニア  
■ 未配分

## 活動地域

国／地域 百万ユーロ (百万円)<sup>※※</sup>

アフリカ

コンゴ民主共和国	100.3	(13,471)
南スーダン	81.7	(10,973)
中央アフリカ共和国	52.9	(7,105)
ニジェール	28.5	(3,828)
エチオピア	26.6	(3,573)
ケニア	22.4	(3,009)
チャド	19.5	(2,619)
ギニア	19.2	(2,579)
シエラレオネ	18.2	(2,444)
ナイジェリア	17.2	(2,310)
カメルーン	12.2	(1,639)
マリ	11.5	(1,545)
スーダン	10.9	(1,464)
リベリア	10.5	(1,410)
ジンバブエ	10.4	(1,397)
モサンビーク	10.0	(1,343)
スワジランド	9.4	(1,263)
マラウイ	9.0	(1,209)
南アフリカ共和国	8.6	(1,155)
タンザニア	6.1	(819)
ウガンダ	5.4	(725)
モーリタニア	4.9	(658)
リビア	4.4	(591)
ブルンジ	3.9	(524)
コートジボワール	3.6	(484)
ギニアビサウ	2.6	(349)
エジプト	2.5	(336)
マダガスカル	1.8	(242)
その他*	1.8	(242)
合計	515.9	(69,291)

国／地域 百万ユーロ (百万円)<sup>※※</sup>

アジア/中東

イエメン	38.4	(5,158)
イラク	31.0	(4,164)
アフガニスタン	27.2	(3,653)
レバノン	27.1	(3,640)
パキスタン	20.1	(2,700)
シリア	17.8	(2,391)
ミャンマー	16.4	(2,203)
ヨルダン	12.9	(1,733)
インド	11.7	(1,571)
ネパール	10.1	(1,357)
ウズベキスタン	7.8	(1,048)
パレスチナ	5.5	(739)
バングラデシュ	3.6	(484)
アルメニア	2.3	(309)
キルギス	2.2	(295)
トルコ	1.8	(242)
カンボジア	1.8	(242)
タジキスタン	1.8	(242)
フィリピン	1.4	(188)
ジョージア	1.3	(175)
その他*	2.5	(336)
合計	244.6	(32,852)

中南米

ハイチ	32.1	(4,311)
メキシコ	3.4	(457)
コロンビア	2.5	(336)
ホンジュラス	1.2	(161)
その他*	0.7	(94)
合計	39.8	(5,346)

オセアニア

パプアニューギニア	6.8	(913)
その他*	0.1	(13)
合計	6.9	(927)

未配分

その他	7.0	(940)
地域横断的な活動	5.0	(672)
地中海での活動	4.2	(564)
合計	16.2	(2,176)

\*「その他」は、プログラム支出が100万ユーロ(約1億3400万円)以下の国をまとめている。  
\*\* 1ユーロ=134.31

## 皆さまのご支援、ありがとうございました

2016年、国境なき医師団(MSF)日本は、27万7039人の個人、1万1178の企業・団体の皆さまよりご支援を頂き、世界各国でのMSFの医療・人道援助活動に資金を提供することができました。皆さまのご厚意に、心よりお礼申し上げます。

### MSFコーポレートサポーター

株式会社シグマ

### プロボノ

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所  
クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業  
ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所  
ウイングアーク1st株式会社  
ゲーブル合同会社  
株式会社セールスフォース・ドットコム  
日本ヒューレット・パッカード株式会社  
デルタ航空会社  
日本マイクロソフト株式会社  
ペイン・アンド・カンパニー・ジャパン・インコーポレイテッド  
NHN テコラス株式会社  
株式会社ファイブドライブ  
三和コムテック株式会社  
セイコーホールディングス株式会社  
日商エレクトロニクス株式会社  
インフォテリア株式会社  
株式会社エレクトロニック・ライブラリー  
UBMメディア株式会社  
アリアーイングリッシュ株式会社

### 支援企業・団体

株式会社ブレーリードッグ  
株式会社保険見直し本舗  
コネクシオ株式会社  
Google matching gift  
株式会社シグマ  
新日本管財株式会社 互助会  
株式会社大和証券グループ本社  
大和証券株式会社  
リンベル株式会社  
ソフトバンクグループ  
リタ・マークス株式会社  
ヤフー株式会社  
チムニー株式会社  
フォーク株式会社  
大産住宅株式会社  
株式会社アイキ  
株式会社 築地蟹商  
公正取引委員会職員組合  
特定非営利活動法人 Standard Opinion Society

チャリティイベント・募金箱等

ピースフル・コンサート越谷 実行委員会  
株式会社帝国ホテル  
豊島岡女子学園中学校・高等学校

八洲電機株式会社

ホクシン設備株式会社  
大阪油化工業株式会社  
エムスリー株式会社  
株式会社ジェーシービー  
株式会社阿部木材店  
株式会社マルサ  
株式会社 稲葉電機  
ユニオンモーター株式会社  
株式会社サンプラント  
有限会社木場工業所  
RME株式会社  
医療法人 サン・ミッセル会  
株式会社アイメディクス  
株式会社エボスカード  
株式会社小林板金工業  
株式会社エフワン  
一燈国際特許事務所  
小林土木株式会社  
株式会社 丸昌  
医療法人社団 至厚会 勝又整形・形成外科医院  
株式会社 名優  
有限会社アーク・アソシエイツ  
斎清工業株式会社  
株式会社アルコインターナショナル  
株式会社エーゼン  
有限会社スクラム  
森永乳業株式会社  
森乳スマイル倶楽部  
株式会社スタンダード石油大阪発売所  
八千代電設工業株式会社  
株式会社ヤマエンタープライズ  
ケイヒングループ(京友会)  
丸中製菓株式会社  
株式会社宮川歯輪  
株式会社丸昌  
オリコグループ社会貢献ファンド  
株式会社ジャックス

### 個人支援者

浅川 嘉富  
池田 順子  
伊藤 文  
井上 桂子  
岩名 孝子  
大曲 伸拡  
大八木 明  
落合 由美  
才田 博幸  
佐々木 まゆみ  
佐々木 容子  
佐藤 愛子  
芝崎 恵次  
島村 香也子  
鈴木 伸宜  
関根 迪子  
高橋 厚  
田口 邦子  
田村 宏  
丹野 隆史  
對馬 美喜  
外山 平三郎  
中村 光一  
中村 孝子  
農本 知子  
野中 一  
花房 光子  
林 曜兵  
福岡 顯  
細川 千和子  
本郷 真一  
巻田 泰彦  
増田 憐子  
松井 利夫  
三ツ橋 史緒子  
森内 浩幸  
盛田 繁雄  
山下 徹  
山本 いちえ  
山本 和男  
結城 昭雄  
渡邊 勅允

(以上、順不同)

◎お申し込み・資料請求は  
E-mail: corporate@tokyo.msf.org まで

### 理 事 Board Members

会長 President	加藤 寛幸 Hiroyuki Kato MD
副会長 Vice President	安藤 恒平 Kohei Ando MD
副会長 Vice President	篠崎 康子 Yasuko Shinozaki MD
専務理事 Secretary General	吉野 美幸 Miyuki Yoshino MD
会計役 Treasurer	副島 秀樹 Hideki Soejima
理事 Board members	久留宮 隆 Takashi Kurumiya MD
	鈴木 基 Motoi Suzuki MD
	中嶋 優子 Yuko Nakajima MD
	リー・ヒヨミン Hyomin Lee MD
	リチャード・スieberle Richard Sebel

### 監 事 Controllers

黒崎 伸子 Nobuko Kuroasaki MD
ジル・デルマス Gilles Delmas

(2017年3月末現在)



## 「病院を撃つな!」キャンペーンを実施

2015年10月3日、アフガニスタン北部クンドゥーズ州でMSFが運営していた病院が爆撃され、患者・スタッフ42人の命が奪われました。その後も、世界の紛争地で医療施設への攻撃が頻発しています。MSF日本では、この非人道的な事態を日本社会に広く伝えるキャンペーンを2016年5月から展開。その一環として東京、大阪で開催した写真展「紛争地のいま」展には、合計4600人を超える方々にご来場いただきました。また、日本政府が事態改善に向けて国際社会に働き掛けを行うよう求める署名活動にも、力強いご賛同のもと、全国から総計9万5821筆をお寄せいただき、これらの署名を4月末に外務省・厚生労働省に提出しました。

皆さまからの温かいご支援・ご協力に、改めて心より御礼申し上げます。



## 被災者の緊急ニーズに対応

2016年4月14日、16日にかけ九州中部を襲った熊本地震。MSFは被災地の医療ニーズを調査するため、17日に医師2人と非医療スタッフ2人からなるチームを現地に派遣し、被害が特に大きい熊本県益城町、菊池市、阿蘇地域を中心に調査を実施しました。その結果、阿蘇地域の基礎医療が極めて不足していることを確認し、南阿蘇村の白水庁舎内に設置した仮設診療所を拠点に活動開始。派遣されたチームは村内の各地区に設けられた避難所を訪問し、衛生環境の観察と聴き取り調査、施設側への改善提案などを行ったほか、南阿蘇村全域で小児医療のアドバイザーとしての役割を担いました。

活動開始から約3週間、診療所での診案件数は182件。被災者の医療ニーズに地域医療が対応できる段階まで復旧したと判断し、同年5月4日に地元へ活動を引き継ぎました。

国境なき医師団(MSF)日本は1992年に設立され、1997年にMSFの事務局の一つとして独立組織となりました。1999年に特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都の認証を受け、2002年に認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁の認定を受けました。2013年7月には、東京都から認定NPO法人として改めて認定を受けました。

## 活動をご支援ください

国境なき医師団の活動は、皆さまからの寄付で実現しています。私たちと共に、命を救う力となってください。

0120-999-199  
(通話料無料 9:00~19:00 無休)  
[www.msf.or.jp](http://www.msf.or.jp)

